

2006年11月号

シビル メール ニュース



土木工学科卒業生の皆様は是非「日本大学理工学部土木工学科」のホームページをご覧ください。

ホームページは <http://www.civil.cst.nihon-u.ac.jp> で検索してください。なおシビル・メール・ニュースをE-mailにて配信ご希望の方は zimushitsu@civil.cst.nihon-u.ac.jp で購読申し込みください。

発行責任者 土木工学科教授・教室主任 岸井隆幸

大学祭（土木博）が11月3日（祝）から5日（日）まで開催

平成18年度の大学祭(青駿祭)が駿河台校舎で11月3日(祝)から5日(日)までの3日間開催されますが、それと同時に土木工学科の学生諸君が『土木博』を開催いたしますので、卒業生の方々も是非その成果を見学にお立寄りください。土木博は土木計画系・地盤工学系・河海工学系・構造工学系・衛生工学系・土木材料系の学生諸君が、それぞれ独自のテーマに関して、模型実験やパネル展示などによって、土木工学の現状と今後の問題についての発表をいたします。

土木博実行委員長の島田浩司君からのメッセージ

「日本大学理工学部土木工学科を卒業された先輩の皆様。今年もいよいよ土木博が開催される季節がやってまいりました。毎年、行われている土木博ですが、今年も各研究室からの研究発表を通じて、社会一般の人達へ土木工学というものが実社会でどう役立っているのか発表し、今後ますます日本大学理工学部土木工学科の発展を願って行うものであります。そのためには、社会で活躍されている先輩方に現在の「日本大学」を、また、私たちの活動がどのようなものなのかをご覧になっていただき、先輩方からの貴重な体験談等を聞き『未来の土木工学科』を一緒に考えられたら、私たち学生達にとって有意義な土木博になると思っておりますので、是非駿河台校舎まで足を運んで下さい。」

土木女子の会 開催される

10月14日（土）午後5時より駿河台校舎9号館において、日本大学理工学部土木工学科に在籍する女子学生と卒業された女性OGによる土木女子の会が開催されました。この会はすっかり恒例行事となっており、年2回ほど懇談会が開催され、今回は7月に引き続いての開催となっております。当日は、約30名の在校生および土木工学科卒業生が参加し、学生生活の過ごし方ならびに就職などについて和やかに懇談が行われました。



卒業予定者の就職内定が好調

平成 18 年度の土木工学科の卒業予定者の就職内定者がぞくぞくと報告されております。

10 月 15 日現在で、土木工学科事務室に報告された就職内定状況は次のとおりです。公務員 33 名、建設業 41 名、コンサルタント業 17 名、運輸業 9 名、不動産業 4 名、商社 4 名、電力 1 名、大学院進学 42 名です。

就職担当教員(4年クラス担任) 鎌尾彰司専任講師の談話

「本年度の就職状況は、これまでのところ大変好調で、現在でも今年度卒業予定者に対する求人に来られる会社があります。本学の傾向としては、建設業を志望する学生が多く、ほとんどの大手建設会社に1~2名の内定を受けております。また、本年は公務員の合格者が33名で、近年になく多くの合格者を出しております。中でも、東京都および東京都特別区で14名が合格となっております。さらに、市役所等ではこれからも合格発表が予定されております。運輸業の中ではJR東日本、JR東海に7名の内定をいただいております。不動産業やIT業界でも、土木工学科学生の採用者数が例年より増えています。このように土木工学科学生の就職が好調なのは、卒業生の皆様方の力強いサポートがあってからこそだと感謝しております。今後ともご指導、ご支援の程よろしく申し上げます。」

コンクリートカヌー大会出場

9月23日、琵琶湖においてコンクリートカヌー大会が開催されました。これは土木学会年次学術講演会の翌日に琵琶湖において行われたもので、本学科の梅村靖弘教授の研究室が出場いたしました。

参加した岡ノ谷圭亮君・桐生和明君の談話

「平成18年度土木学会全国大会コンクリートカヌー競技に梅村研究室で出場しました。カヌーは、産業副産物の再利用をテーマに高炉スラグを用いて製作しました。結果は、予選落ちでしたが初出場ながら完走することができました。さらに、コンクリートカヌーの製作を通じて研究室が一丸となり友情が芽生えたようにも感じました。今回の経験を踏まえ来年の後輩は、より上位に食い込めるように努力してもらいたいと思います。」



コンクリートカヌー大会『日本スラグ丸』

3学部4学科の教員懇談会を開催

9月20日にホテル阪神において土木系3学部4学科の教員・学生ならびに大阪周辺在住のOBの懇親会が開催されました。これは土木学会年次学術講演会の際に、毎年開催されているもので、本年は大阪での開催になりました。全体で80名を超える参加者(本学科教員13名・学生3名)があり各学科の教室主任から各学科の近況報告や教員紹介などが行われました。



大阪在住のOBとともに

最近の教員活動状況



前野賀彦教授が7月28日に行われた日本工学教育協会総会で、日本工学教育協会より著作賞を受賞されました。著書名は「工学基礎技術としての物理数学」(ナカニシヤ出版)で工学を学ぶ上で必要な物理数学の基礎を解説し、例題を中心に図や表、写真を多用し親しみやすい教科書を追求したものです。



安田陽一教授が国土交通省国土交通大学校からの依頼により10月17日に「環境に配慮した砂防技術」と題して同校において、特別講義を行いました。

また、去る7月4日北海道函館市において開催された特定非営利活動法人(NPO法人)「北海道魚道研究会」の講演会に特別顧問として招かれ、「魚道の形態」について講演を行いました。翌5日には、函館市内の川汲川で行われた「魚道見学会」の講師を依頼され、魚道の調査・設計時の考え方、施工時の留意点について説明いたしました。この講演会および見学会については7月5日付の北海道新聞、函館新聞、7月6日付の函館新聞、北海道建設新聞、北海道通信ならびに7月7日付の北海道建設新聞、北海道通信で紹介されました。



田中和博教授が平成16年9月9日から16日まで、瀋陽薬科大学の招請により中国の瀋陽市に出張されました。

田中和博教授の談話

「瀋陽薬科大学は1931年に創設された中国工農紅軍軍医学校に始まり、幾度かの変遷をへて現在の名称になっています。その名称の通り中国有数の薬学の総合的な大学で、薬学部、中薬学部、薬剤製造学部、経営管理学部などからなっています。中国の経済成長と共に環境問題が顕在化しており新たに薬剤製造学部の中に環境科学科が創設され、学生定員は1学年30名であります。この大学では第二外国語としてではなく、日本語による薬学、中薬学を学ぶコースがあり、これらのクラスでは先ず日本語ばかりを1年間勉強いたします。したがって5年かけて卒業することになります。

今回の訪問の目的は、環境科学科における講義と環境分野における研究のあり方に関する意見交換でありました。滞在期間中、2回にわたり日本語を用いて講義を行いました。学生の日本語能力がまだ十分でないとのことで、大学院生が通訳をしてくれましたが、この学生は通訳として十分な能力を有していました。環境科学科の3年生を対象とした講義では、先ず基本的な理解をもらうため下水道の仕組みについて解説を行いました。さらに地球温暖



瀋陽薬科大学

化問題を概観し、地球温暖化問題と下水道の係わりについて解説いたしました。環境科学科4年生を、対象とした講義では、環境反応学と題して環境問題を解く鍵となる物質収支の取り方を定常、非定常状態、保存量、非保存量などとの関連で解説しました。環境科学科のカリキュラムは化学分析が中心であり、工学的な扱いについては不慣れであるので、学生にとっては新しい分野でありました。学生の聴講態度は極めてまじめであり、積極的な質問も出るなど好感が持てました。

研究内容については Xiaohong Hou 教授、Liang 助教授、川西康博客員教授（瀋陽薬科大学）、小林弘教授（千葉大学薬学部）を交えて意見交換を行いました。Liang 助教授のテーマは藻類を用いた土壌崩壊対策に関するもので、主としてこの研究の有効性、将来性について私見を述べられました。用いられている微生物が極めて特殊なものであり、より効率の良い微生物を探すことが望ましいことを指摘しました。

また瀋陽市にある満堂河污水处理中心（下水処理場）を見学しました。この処理場は担体添加の活性汚泥法ですが、その処理水をさらに人工の湿地へと導き仕上げ処理を行っており、極めて良好な放流水が得られていました。また処理場敷地全体の修景が入念になされており、敷地面積の限られる我が国の下水処理場に比べてゆとりを持った設計がなされていました。担体添加の活性汚泥法と湿地を用いた仕上げ処理に関する研究は世界的にも下水処理分野の重要なテーマであり、環境学科の研究対象や学生の実習課題として極めて適切であることを、Xiaohong Hou 教授に提言いたしました。

今回の出張は、瀋陽薬科大学との交流及び中国における環境問題、下水道の一端を知ることができ、彼我ともに有益でした。」



山敷庸亮専任講師が 9 月 25、26 日の両日、イギリスのケンブリッジにある国連環境計画世界流域監視センター (UNEP-WCMC) にて開催された国連環境計画地球環境監査システム淡水部門 (UNEP-GEMS/Water Programme) の第 3 回技術諮問委員会 (TAG) に出席されました。

山敷庸亮専任講師の談話

「私は国立環境研究所の客員研究員として、同部門の今井総括とともに参加いたしました。本技術諮問委員会においては地球規模での淡水水質観測データにおける政策的な決定がなされ、私は第 1 回から毎回参加させていただいております。本年 4 月より UNEP GEMS/Water においても情報収集顧問の役割をいただき、日本大学学術助成金によって行った南米での研究成果を GEMS/Water のデータベースに追加するよう働きかけております。このように地球規模のデータ収集においても日本大学理工学部土木工学科の存在が認識されるまでになっております。」

松島眸教授は 10 月 1 日より理工学部就職担当教授に任命され、理工学部就職委員長として、理工学部全体の就職関係について担当されています。

齋藤利晃助教授に公益信託下水道基金、平成 18 年度研究助成及び平成 18 年度クリタ水・環境科学振興財団研究助成が授与されました。

訃報

元日本大学教授 堤 好文先生が 10 月 4 日逝去されました。

ご遺族 堤 絵里子 様 （練馬区小竹町 2-62）
謹んでお悔やみ申し上げます。